社説 穀倉半島の祈年祭

一

決戰下國を擧げて戰力增强に邁進する秋、畏くも 天皇陛下には二月十七日宮中において賢所、皇靈殿、神殿の大前に御親拜あらせられ、昭和十八年の五穀の豐穣、民草の繁榮、國力の充實、國運の隆昌を御祈念あらせ給うた。且つまた伊勢の神宮に勅使を御差遣じて奉幣の儀を行はしめらるるほか、全國の官國幣社に供進使を參向せしめて夫々幣帛を奉奠せしめ給うたのであるが、朝鮮においては氣候的關係から一月のばして、けふ十五日朝鮮神宮初め官國幣社へ供進使參向して奉幣の儀が執り行はれるのである。

二

この祈年祭は遠く神代に發し中古天武天皇の御宇に至りて初めて國儀と定められ、明治維新以後宮中並に神宮におかせられて毎年嚴かに執行はれ來つたところの重大なる祭儀であると承る。故に國民たるもの齊しく心を一にして、天神地祇に對し奉り、豐穣の誠を擧げて神明の加護を只管祈願すべきである。畏くも今春の歌御會始において詠ませ給へる

ゆたかなるみのりつづけと田人らもかみにいのらむ年をむかへて

大御心拜するだに恐懼感激、赤誠の祈念をこめて、生產の增强を固く誓ひ奉るべきである。

三

惟へば昭和十八年こそ、決戰の年である。一粒でも多く米を作り麥を作つて、米英擊滅の底力を培成しなくてはならない年である。一粒の米、麥、粟などのすべてが戰ひと不可缺の關係にあることが先づ農村において確認されなくてはならない。かつてはそれらは自家の收益であり生活資力であつたが、今日では國家の一粒であり、戰ひの力としての一粒である。これを換言するならば、大東亞戰爭を勝ち拔く日本國力の一粒である。ここに過去の生產と現下の生產との本質的相違が存在するのである。自分の米を作るといふより、大君のお米を作らしていただいてゐるといふ光榮に、皇國農道の本義を體得すべきである。ここに於いて、嚮に小磯總督が全鮮府尹、郡守、農司を招集して、大東亞戰爭下における穀倉半島の地位とその責任とを一層喚起し、官民一體農業生產の國家的使命の達成に總當りすべきを要請したる所以に想ひを致し、今ぞ全鮮農作者は神々の大前に跪坐して〝この年〟の豐穣をこそ祈らねばならない。

四

然るにこのことたる唯に農作者のみの祈念にまかすべきではない。現下國民生活は一粒の米の如何が、工場に、鑛山に、街に、漁村にいや戰ふ國家全體の上に占むる有機的緊密性において、農漁工商一體、街も村も海も山も半島二千四百萬心を一にしてその主要食糧たる年穀の豐穣を祈願すべく、この國民的祭典を盛大に執り行ひ、〝すめらみくに〟の農業がもつ國史的品格に心を深め、一にも二にも決戰食力の確保に邁進しなくてはならない。もし地方にして神祠の奉據なき部落にありては、清淨なる地域を選んで朝鮮神宮を遙拜所を設け、心から祈願の誠を效すべきである。

五

聽くに十五、十六日に亙つて全鮮農業報國大會並に全鮮農業報國指導者大會等の積極的會同が行はれて、愈よ農業報國運動が强力に展開されるといふが、それらのすべてが神を崇め神々の加護による天地の惠みを〝とりしこび〟ずる醇朴なる農民精神においてあらゆる近代科學の叡智を包攝し、至純にして明朗なる農道の實踐がとられることを切望して已まない。

隨所に赤軍を殲滅
ハリコフ 完全占領近し

【ベルリン十三日同盟】獨軍は十二日正午ハリコフ市街中固の赤色廣場を占領して以來、勇猛に赤軍の頑强な抵抗を排して市街掃蕩作戰を進めてゐるが、十三日獨軍司令部はハリコフ停車場を占領したと發表した

【ストツクホルム十三日同盟】ハリコフ北方および西北方から市街へ殺到込んだ獨軍精鋭部隊は早くも中心地區の赤色廣場、中央停車場を占領し、十二日夜までには西部、北部ならびに中央部とすでに市内の三分の一を手中に收めるに至り、いまやハリコフ完全占領は目睫の間に迫つてゐる

目下南部地區では死鬪が展開されてゐるが、獨軍は親衞隊及び突擊隊からなる精鋭部隊に配するに有力な戰車隊をもつて得意の速攻を展開、すでに赤軍陣地に對し數本の楔を打込み赤軍を寸斷しつつある模樣だ、之に對し赤軍部隊も必死の防戰に努めハリコフをして第二のスターリングラード化せしめんとしてゐるが、戰闘に劣勢に加ふるに戰車隊の不足甚だしいためにその抵抗力は急速に減退し一部は早くも東南方に向つて敗走してゐるといはれる

一方地上部隊の劣勢を補はんとしてソ聯側では有力な空軍をもつて獨空軍の前進阻止を企圖した模樣で、十二日ハリコフ上空で獨ソ兩空軍は六回にわたり空中戰を演じたと傳へられるが、制空權もすでに獨側に歸し獨空軍は同市周邊地區を縱橫に飛翔、市街の狹隘な地區に據る赤軍をはじめ敗走する赤軍に潰滅的打擊を與へたといはれる、ハリコフ南部の獨軍も赤軍の退路遮斷を目ざし一路東方へ進擊をつづけてをり、赤軍はドネツ河東岸に放列を布いて獨軍のドネツ渡河阻止に躍起となつてゐる

さらにハリコフ北方では獨軍は十二日アフチルカ、ボホドウカ、グレイボロン、ボル・ピサロヌカの西要街を奪取したのち、ベルゴロドに對し西方ならびに西南方から一齊に大攻擊を開始一舉に同地を奪取、クールスク、ハリコフ鐵道を遮斷せんとしてゐる、オリヨール地區の赤軍もハリコフ戰線の重大化に脅かされ十二日はほとんど攻擊に出でず、徒らに獨空軍の爆擊によつて多大の損害も被つてゐるといはれ、また獨空軍はオリヨール南方のリフニイを爆擊、同地に集結中の赤軍大部隊に甚大な損害を與へた模樣だ

【ベルリン十三日同盟】獨軍司令部は十三日の公報において、獨軍は、ハリコフ西北方五十キロのボグドホフおよび同地西北方二十キロのアフチルカならびにハリコフ北方七十キロのグレイボロンの三都市を完全に占領した旨公表した

赤軍旅團長捕虜
獨、クバンで先制

【ストツクホルム十三日同盟】ハリコフ以南地區の獨軍も依然攻擊をつづけてをり、イジウム、ボロシーロフグラード西方ではとくに顯著な前進を遂げたといはれる、クバン下流地區の北方では十二日赤軍は步兵一旅團をもつて攻勢に出るべく作戰準備を行つてゐた模樣だが、獨軍は機先を制してこれを奇襲、赤軍旅團長以下捕虜五百十名を得、また赤軍の遺棄死體は三百六十を數へたといはれる、またタマン半島沖でもソ聯黑海艦隊は獨軍の背後を脅かさんとして策動をつづけてゐるが、十二日獨軍沿岸砲台はアナパ西北方で海岸へ接近せんとするソ聯快速艇三十隻を發見、これに猛砲擊を加へて一隻を擊沈したと傳へられる

一方モスコー西方で引つづき獨軍は後退作戰をとり戰線の縮少をはかつてゐるが、赤軍はビヤジマ占領後ビヤジマとスモレンスクの中間に位するデユロボ攻略を企圖し、目下ベールイならびにシーチエフカ方面から前進をつづけてゐる模樣だ、後退をつづけながらも獨軍は隨時反轉して赤軍先鋒部隊に大損害を與へてをり、十二日ビヤジマ地區で赤軍戰車十三台を擊破したと傳へられる

獨軍戰況發表

【ベルリン十三日同盟】獨軍司令部發表

東部戰線 一、獨山岳部隊ならびに戰車、擲彈兵隊はクバン河口地區で步兵數個旅團からなる赤軍部隊に對し奇襲を敢行、大損害を與へて敵を四散せしめ捕虜五百名を得た

一、ハリコフでは數個所で熾烈な市街戰が展開されてゐるが、獨親衞隊は敵の抵抗を排して中央停車場に突入、さらにその周邊を占領した、獨空軍もまたハリコフ東南方で敗走する赤軍部隊に對し猛爆を浴びせ、またハリコフ東北方のビエルゴロド西方でも獨軍は目下大規模な攻擊を行ひつつある

赤軍戰死五萬
オリヨール周邊戰果

【ベルリン十三日同盟】獨軍當局は十三日オリヨール地區の戰闘につき次の如く言明した

二月一日から三月十日までに獨軍はオリヨール周邊の防禦戰で赤軍戰車四百八十四台を擊破し敵の戰死は約五萬名に達した、二月初旬赤軍はまづオリヨールに對し南方からついで東方から最後に北方および南方から續々兵力を增强して攻擊に出て來たとくに最後の段階においては、敵は十五萬の兵員と戰車四百台……

英に愛想づかし
亡命波蘭政權華府へ

【ストツクホルム十三日同盟】國境問題を繞るソ聯、ポーランド紛爭に對し英國政府が傍觀的態度を示すのみか、さらに進んでソ聯側の主張を支持するがごとき立場をとつてゐるのに對して在ロンドンのポーランド亡命政權は極度の不滿を示してゐると傳へられるが、十二日ダーグスポステン紙リスボン特派員がロンドン報道として傳へるところによると、亡命政權首相シコルスキーは英外相イーデンに對して斷然袂を拔りポーランド政權のワシントン移轉を通告したといはれる

四國會談で糊塗か
イーデン訪米の內幕

【ブエノスアイレス十三日同盟】スタンドレー大使の言明で米ソ國間の確執が表面化した折から英國外相イーデンの訪米は各方面の注目を惹いてゐるがワシントン電によれば米國各紙はイーデンがルーズベルトに對し反樞軸國の調整策として米英ソ蔣政權の圓卓會議の開催を提唱する……

前途は分らぬ
イーデン語る

日系市民召集か
米、既に獨伊系訓練

週間世界の動き

米英、ソの對立相剋
果然深刻化す
スタンドレー舌禍の波紋

亡命ポーランドとソ聯との國境紛爭事件が未だなんのけりもついてゐない中に今度は駐ソ米大使スタンドレーの失言問題が起つた、ポーランド國境問題は亡命ポーランド對ソ聯の問題といふよりは米英對ソ聯の對立だつただから今後のスタンドレー事件はある意味ではポーランド國境問題に反映してアメリカ、ソ聯の對立が一層深刻に發展したものと解釋……

亡命ポーランドとしても一向差支へない、外電の傳へるところによると、スタンドレーの失言問題の經緯は次の如きものである、今月八日スタンドレーはモスコーで米英の新聞特派員と會見『ソ聯政府は米英の援助ぶりを一向國民に知らすことなく恰も獨力で戰つてゐるかの如く宣傳してゐる』と言明してソ聯の秘密主義と米英默殺ぶりを非難した、このスタンドレーの言明自體が果して事實に相違するものかどうかは吾々の周知するところでないが米國では『事實に相違する失言だ』といふ警告が主として民間側から續々として捲起つた、例へばタイムス紙のモスコー電は左の如く傳へてゐる

『スタンドレーのいふ如くソ聯の人民は米英の援助に無知でない民衆との接觸が不自由なモスコーばかりにゐては事情がわからないかも知れないが、若しもスタンドレーが一般市民に接してある機會があつたならば彼等が日常食用にしてゐる穀物やハムや砂糖が米國製であることを知つてゐる者が如何に多數ゐるかを知ることが出來るだらう』又最近の國間紙は『赤軍は米國の軍靴をはいてゐると報道してゐる』……

米、玉蜀黍を增産
比島で食糧五ケ年計畫

結局小國を犠牲
米英ソ惡化の證左

隨想錄

煉炭等の配給

本社寄託獻金

天地の恵みに感謝 けふから半島の祈年祭

五穀豐穰

戰時下食糧増産の確保を期して兵站基地半島民草が五穀豐穰を恭しく神の御前に祈り奉る祈年祭は十五日から廿一日まで一週間に亘り朝鮮神宮を初め全鮮各神社、神祠において嚴かに熱禱が捧げられる、祈年祭は『としごひのまつり』と訓じ稻はもとより廣く穀物の豐穰を祈り、皇室の御安泰、國力の充實、國家の隆昌を祈り奉る祭儀であり、秋の新嘗祭と首尾をなす重要な祭儀で、内地では二月十七日に執り行はれたが、朝鮮では氣候風土の關係上三月十五日と定められてゐるもの

祭は國民總力聯盟、朝鮮農會主催により全鮮七萬三千部落山村部落聯盟員をはじめ各官公署、各團體も共に眞摯熱烈な報國運動を展開するが、半島總鎭護朝鮮神宮においては次の通り大祭式に則り小磯總督勅使となって參向、十五日午前十時から軍官民代表參列して陛下五穀豐穰を祈念し天地の恩惠を垂れ賜はらんことを熱願するほか全鮮各地國幣社、神祠にあっては十五日より一週間のうち適宜日取を定めて祈年祭を執行するが、祭式は概ね午前七時卅分から開始し獻饌、齋主の祝詞奏上、主催者代表の玉串奉奠、參列者代表の玉串奉奠、撤饌、撤幣並に贈品授與して一同退下の式次第による、なほ神祠の無い部落集會所では清淨なる地域を選んで朝鮮神宮遙拜所を設け二間乃至三間四方に注連縄を張り廻らし常盤木を樹て、部落聯盟員一同參列して前記式次第に準じて祈年祭を行ふこととなってゐる

以上祈年祭が終了すると引續きその場において宣誓式を擧行する、式は増産に關する決意を神前に宣誓し、特に農山漁村部落聯盟では農業報國運動實踐事項中より直ちに實行に移すべきものを定め徹底實踐を期する、かくて宣誓式を終れば鍬始式を執行、以上を以て撃ちてし止まむの決意も固き決戰下の新年祭全行事を終了する

なほ、この間各學校團體では神宮、神社に參拜、都會地では食糧消費規正を期して粥食を斷行、増産に挺身する農民の勞苦に深い感謝の熱意を捧げるなど二千四百萬が一體となってこの年の五穀豐穰を祈願する

神田で鍬始式

城津でも新年祭

農村兒童へ贈物 ヨイコから繪本や感謝文

【東京電話】父や兄を戰線に工場に送り出しながら銃後の農業増産に勵む全國農村の兒童に都會兒童の眞心籠めた感謝文や繪本などを送らうと中央食糧協力會では大日本婦人會…に呼びかけ…期日は十七日から三月一杯で一隣組當り繪本、讀物一乃至二冊、國民學校兒童のゐる家庭から感謝文…少しでも多く出して欲しいとしてゐる

増産への決意宣揚 朝鮮農會の行事決る

農業殉國の誓ひも固く官民渾然一體となり決戰朝鮮の大使命完遂に邁進協力する十五日の祈年祭に當り、朝鮮農會では小磯總督の鍬始式をはじめ朝鮮農業報國大會及び農業報國指導者大會を熱誠籠めて擧行する

△朝鮮農業報國大會 地方農村の先覺者として農村開發の陣頭指揮に一意挺身してゐる全鮮有力地主百五十名を京城に招集、午前十時からの朝鮮神宮祈年祭に參列、更に午後二時から總督府第一會議室において農業報國大會を開く、會は小磯總督臨席して鹽田農林局長司會の下に開會、國民儀禮に次いで林朝鮮農會長挨拶、小磯總督より食糧増産完遂に積極的協力を要請する告辭があり、これに對し地主代表の答辭及び増産確保を期する宣誓があって閉會する

△農業報國指導者大會 農家指導の第一線に挺身活動する道、郡及び同農會農業技術員四百九十二名を招集、まづ十六日午前九時一同打ち揃って朝鮮神宮に參拜、ついで京城府民館中講堂に參集して午前十時から小磯總督臨席の下に大會を開く、大會は林朝鮮農會長司會の下に國民儀禮、林會長挨拶に次いで小磯總督から食糧増産達成に邁進すべき決議を要請する訓示あり、鹽田農林局長の演述、指導者代表の宣誓あって閉會、午後は一時から松本海軍大佐、同二時半から井原朝鮮軍參謀長の時局講演を拜聽、時局認識を固めると共に増産殉國を誓って意義深き會の幕を閉ぢる

小磯總督 勅使として參向 『朝鮮神宮』の式次第

國民擧げて五穀の豐穰と生産の増強を祈念する新年祭に當り、朝鮮神宮では十五日午前十時から大前において嚴肅盛大に式典が執り行はれる、前夜から勅使殿に參籠潔齋する小磯總督は供進使として大前に參進、恭しく幣帛を奉奠、祝詞を奏上し、五穀の豐穰、國家の隆昌を祈請し奉る

祭典には王公族各御代拜を初め軍官民多數參列するほか、本年は特に國民總力朝鮮聯盟及び朝鮮農會の提唱により全鮮的に祈年祭の趣旨を徹底し増産に拍車をかけることになり、全鮮地主會々員及び農業關係者數百名が參列し増産報國を大前に祈誓し奉る

農本立國の國是を顯揚し決戰下主食の増産擴充を目指して祭典終了後、小磯總督は京城府内典園町の朝鮮神宮神田における鍬始祭の儀に臨む

卒業式

京城第二高女第廿回卒業式は十九日午前十時から擧行

修了式

西大門國民學校修了式は廿三日午前十時から擧行

逞しい春耕譜

吹き込む"農道精神" 退院する白衣の兵隊さんのため 指導農場と會社を設立

玩具類にも規格 全部で七百二十九種に統一

三濟公立國民學校後援會を設立

農産戰士への感謝 講演と映畫の夕

◇日時……三月十六日(火)午後六時半
◇會場……京城府民館大講堂

一、講演
京城日報社々長 高宮太平氏
金組聯庶務部長 鈴木伊勢治氏
京城日報社論説委員 楠田敏郎氏

一、映畫 日本ニュース(最近着)外六巻

入場無料

主催 京城日報社
協賛 朝鮮映畫配給社

銃後も戰場だ 持場々々で任務を果せ

モルガン遂に逝く

夫は妻を毆るべからず 泰政府が憲法へ頂門の一針

大阪理工科大學新發足

専門學校入學者檢定試驗

獻金の花束

ラヂオ

對岸に廢墟の河口

投降將校が語る"重慶の愚劣"

佛印・支那國境を行く

【ハノイ十二日同盟】ビルマ國道を中心とする西南支那へ重慶軍二十萬の大軍が中支方面より移動を開始したとの情報が飛んで間もなく佛國の在支特權返還、我が皇軍佛州進駐が實現をみたことは俄然重慶勢力と境を接する佛印に新しい緊迫感を誘發した、佛印當局の對重慶態度の嚴重さは我の在支特權返還の新聞報道に際して示した嚴重を極めた措置で、充分に察知するところであるが、折も折、重慶軍のビルマ公路奪回企圖に先手を打つて皇軍がビルマに新作戰を展開したことは不氣味な形勢下にある佛印支國境線への關心を倍加した、北部佛印國境に接する西南邊區雲南省は龍雲主席を中心とする孤立的勢力が蔣介石の中央化工作により急角度に轉落、今や雲南軍は佛印國境に挾まれた最南端の一角に所謂遠征軍として追ひやられ昆明を含む支那領演越鐵道沿線の要地、即ち雲南行營は中央軍の第五十四軍三ケ師が進出、更にその東方文山を中心とする對佛印地區一帶、即ち軍事委員會統轄區には同じく中央軍の第五十二軍三ケ師が布陣して此處に雲南南方地區の防衞は全く中央軍に占められ、北部佛印國境線の敵側防衞は一變さるに至つた、之に對し佛印軍は國境前線に亙り昨年末より防備を强化し、長大な要塞戰が夜を日についで建造された、鐵條網一ツなき彼我軍隊の對峙の裡に戰備を急ぐ國境線の

不氣味な實相 を探るべく記者は去る五日國境防衞線の西北端に當る要衝老開に向けハノイを出發、在支米空軍の襲撃を警戒夜間のみ運行する演越鐵道の直通車は四百粁を北上して六日の拂曉と共に老開驛に着く

赤錆の演越線鐵路

その昔昆明、ハイフオンを結んで物資輸送に狂奔してゐた演越鐵道は皇軍の北部進駐の日に重慶側の手で切斷されてしまつた 即ちわが進攻を豫想した敵は老開と對岸の支那領河口を分つて國境線となつてゐる僅かに河幅五、六十米に過ぎない、南溪河（紅河の支流）上の鐵橋を爆破すると同時に、河口より奧地へ約百粁蒙自驛までのレールを取り外してしまひ、現在演越線は支那領では昆明、蒙自間の赤錆びた鐵路を一日一往復する軍用列車となり下つてしまつた、この演越鐵道は元來フランスの對支膨脹工作の先驅として一九〇一年の佛支條約に基きフランスがその敷設權を獲得、佛印ハイフオンから昆明まで全長八百四十粁に約十二年の巨費を投じて建設したものであり、重慶軍により切斷された今日、佛國權益としてハノイに本社を有する印度支那雲南鐵道はフランス會社の手で運營されてゐるが、佛支關係の今後の展開如何によつては雲南省側の全線は重慶側によつて直ちに占領される惧れが多分にあり、この點昨今佛印側では並々ならぬ關心を寄せてゐる譯だ、老開驛を一步出れば紅河と南溪河の合流點が足下に白く小波を立てゝゐる、目と鼻の先にある丁字形の對岸は敵地である、紅河の左側灰土層の斷崖上には灰色をした膨大な三角形のトーチカがぽつかりと黑い銃眼を覗かせて、その上に三色旗が河風にはためいてゐる、直ぐ裏手に老開地區防衞の佛印軍一個大隊の兵營がある、紅河の右岸南溪河の

南側は國境の 町老開だ町へ入る間には四人を滿載した佛印軍のトラック數台とすれ違ふ、何れも老開のすぐ背後にある山上の要塞構築に動員されて行くのだが、これらトラック群は最近夜となく晝となく老開の街を出入してゐるといふ 老開の街は南溪河に沿ふ山腹に一本の道路を挾んで兩側に家並を並べてゐる人口僅か千四百位の町だが、この附近一帶の物資集散地だけに各地から安南人、華僑の田族、ムオン族、トウ族、タイ族等が押し寄せ市場は宛ら蠻族の見本市の樣な活況を呈してゐる、其處此處の壁に皇軍が南方で擧げた戰果のビラがはられてゐる、〇〇大尉の案內で鐵橋破壞箇所に向ふ、破壞された鐵橋の殘骸が強い流れに破壞された日の儘の姿で今も横たはつてゐる、こちらの岸から約八十米、幾ばくもたない家屋が密集してゐる河口の町がある

『あれが敵兵です、撃たれても文句なしですよ』

〇〇大尉にいはれて驚いて家屋の陰に隱れた、成程黃色な顏色までも窺はれる近さで水色の軍裝をした支那兵が銃を肩にして對岸に現はれた、河口の町を守備してゐる敵は第五十四軍百九十八師に屬する一部で同地の戒嚴司令官には副師長の演裕民が當つてゐる、河口の町の眞ぐ背後の山の稜線には目にもしろく斷崖がうねり、右から第一連山にはじまり左第四連山まで敵の第一線陣地を形成、一度び戰端を開けば此陣地から眼下に横たはる老開の街は迫撃砲の集中射を浴びることは必定だといふ至近距離にあるのだ、〇〇大尉の說明によつて眼を凝らせば敵のトーチカ、步哨の位置が眞近の距離に次々に浮かび上つて激しい緊張感に身内がひきしまる思ひがする

この國境線は皇軍進駐以來完全に閉鎖されてゐるのだが、物資のない支那領側の民衆にとつては死活の問題であるため老開、河口兩者間の話合ひにより毎日午前八時より十一時迄を限つて

支那側民衆の 老開買出しを許可してゐる、渡場には双方とも稅關吏と憲警が出張して嚴重な監視下に毎日ほゞ三百人の華僑、主として女達が先づ支那側で通行稅を十錢拂ひ老開側に渡船で渡り華僑の店で許可された範圍內の日用品、例へばマッチは一人當り一箇、煙草は二箇といふ風に買出して歸つて行くが、彼等にとつて國境程迷惑なものはないだらう、田舍から町へ買物に行くと云ふとに過ぎぬのに河一本の距りで物價は總て二倍乃至三倍の開きがある

支那側の暗さと佛印側の明るさの鮮やかな對照は此の老開と對岸河口の街の外貌に見事にあらはれてゐるのだ、昨年一月廿八日我が佛印進駐の陸鷲は河口の軍事施設を見事に猛爆灰燼に歸せしめたが、老開背後の丘に立つて河口を望めば、その當時の爆擊の跡は今も生々しく殘つてゐる、燒け落ちた家屋の跡、燃え殘つた裸の立木、へし曲つて瓦のズリ落ちた屋根の連なり人影もまばらな河口の通りはまるで秋風吹き交ふ廢墟の風情で河岸の窪地に急造のバラツクが五、六棟建つてゐるだけで殆ど復興の跡は片鱗も與へず河に正視するに堪へぬ暗さだ それに引換へ僅か百米と離れぬ老開の何といふ明るさであらう、今日はハノイから理事長官が來るといふので

戶毎に三色旗 と南京政府に忠誠を誓ふ正式中華旗を掲げた華僑の街が人通りも賑かにざわめいてゐる、街の中央にある公認賭博場では寶盤から鉛振りの女の聲が甲高く聞えて來る、國境線に見る明暗二相だ、抗戰の愚さを知つて雲南軍は來より前線警備の中央軍が將校、兵を選ばず投降者は日と共に多くなるのも宜なるかな

朗色漲る佛印、支那國境の街老開

龍雲の轉落物語

だ、〇〇部隊長の斡旋で二週間前投降して來た重慶中央軍第五十二軍第二十五師二中隊長を勤めてゐた劉六尉外三將校に會見する機會を得たが、彼等は、佛印領內で新しい正業の方途もつき、またノビノビした明るい顏で交々抗戰陣營の愚劣さを物語つた

重慶軍の中で抗日戰の經驗のあるものは誰一人として最後の勝利を信ずるものはないと、邊境地區雲南省境に警備し……るならせめて食物位はたまには鱈腹喰べ度いと思つたこと、一隊の俸給八十元では煙草例へば佛印の大衆煙草コタブ一箇が酒保でさへも驚くべく二十五元といふ高價なので餘り喫めないこと、土民達の雲南語が解らぬため軍民離間は日增しに募ること、惡疫はとめ度なく兵士等を仆して行くこと、而も日本軍勝のニユースはどんなに匿してもこの邊區まで時を移さず入つて來ること などを語るのだつた、また雲南軍

中隊長廿大尉 は曾ての雲南省の首腦者龍雲の轉落について次のやうに興味ある話をした

龍雲の手足である第六十軍第三旅長龍漢斗は中央軍の壓迫により演西區に閉め出されて以來中央軍からその擧動を監視されてゐたが、昨年末軍需品を佛印から密輸したことが發覺、これを口實に逮捕され重慶に送られるに至つた、いはゆる龍雲軟禁說はこの事實が誤り傳へられたものであるが、このことあつて以來龍雲は事實上軍權を剝奪され蔣介石の雲南中央化工作は鮮かに成功し、近く第二十集團軍の移駐と同時に邊疆の昆明眾込さへ報ぜられてゐる

かうした投降者が昨今激增したことは最近西南地區の事態深刻化に伴ふ前線警備の交代が間近に迫つてゐることを知つて、投降するならこの機會をのがすまいといふ氣持から出たものと思はれる、情報によれば第五十二軍は廣東方面へ第五十四軍はビルマ方面へ近く移動し、二十集團軍に屬する他部隊と交替するといはれるが、故鄉の家族を捨てて佛印領內に脫出した彼等の差迫つた氣持は十分に同情出來る、彼等は結論として和平の來る日まで故鄉の土を踏めない

『自分達にとつての決意は只一つしかありません』ときつぱり語つた、この老開に見る對岸敵陣地の

防衞は作戰的 には全く警戒陣地の範圍を出でず、主陣地は後方深く百キロの線にあるといはれるが、一度國境線に砲聲が轟く暁は彼等は早速後退するのがおちではないかと思はれる、對岸に見る步哨も進んで一發を放つ決心はとてもつくまい、記者は腹を決めて悠々と對岸を寫眞機に收めたが折も折、在支米空軍の二機がわが方の偵察から歸つたのか、肉眼に見えぬ高度に爆音のみが響いて老開上空を通過した、神經質な佛人のホテルでは主人だけが防空壕に駈け込んだが、この山奧のお伽話のやうに美しい老開は夜に入つてもソンコイの流れに明るい灯影を落して暗い對岸の重慶軍兵士の胸を夜每烈しくかきむしることだらう

雲南前線で敵と對峙する我勇士（陸軍省檢閱濟）配送

大いなる祭【93】

中野實（作） 三芳悌吉（繪）

新らしき地圖（四）

『玉英さん』

アルメイダは、ぐつとうしろから迫つて、彼女の耳許で囁くやうに、

『その男の人の職業は、神樣がよく御存知です』

『え？』

『廣東に潜入した遊擊隊』

『まあ……』

ふり向く彼女の顏を喰ひ入るやうに凝視してゐたアルメイダは、

『あなたは中國を愛しますか』

『はい。神に誓つて』

『さう』

アルメイダは、目をそらして一二步步き出しながら、

『台灣にゐたと云ひましたね』

『はい』

『日本語は出來ますか』

『えゝ、ほんのすこし』

『ふむ』

『勿論。台灣語は』

『出來ます』

『台灣の言葉は、福建省が主ですね』

『えゝ』

『さう……。あなたは、今何をしてゐるます』

『リベイラ・ホテルで働いてゐましたけど、やめさせられましたの』

『やめさせられた？』

『えゝ。中國の女だからといふ理由で』

『さう』

『でも、あたし、日本人の威張つてゐるあんなホテルで働きたくありませんわ』

『それで』

と、アルメイダは、ちつと空間の一點に視線をはしらせたまゝ、

『あなたは、これからの生活をどうしてゆくつもりですか』

『判りません』

『判らない……』

『司祭さま。わたくし、どんなことでもいたします。亞媽さんにでも、洗濯女にでもなります。わたしをこゝへ置いて下さい』

彼女は追ひ縋つて、哀願するやうに云つた。

『同情します』

アルメイダは立停ると、くるりと彼女の方をふり向いて、

『玉英さん、あなたは日本を憎みますか』

『憎みます』

『あなたは、兄さんやお父さんやお母さんのために、復讐しようと思つてゐるのですか』

『思ひます』

『ほんとに、あなたは』

と、彼は、聲をひそませて、

『宗敎より、あなたの祖國を、あなたの中國を愛するのですね』

『愛します』

『さう。判りました』

『司祭さま。わたくし、どうすればよろしいのでございませう』

『私は神に仕へる者です。私は、神を愛し神の御命令によつて動くだけ』

ふたゝび步き出しながら、

『しかし、神樣は惠み深くゐらつしやいます。わたくし、あなたを私の知人に紹介してあげませう。キャバレー・リスボンのフロイスといふんです。この人、あなたの力になつてくれるかも知れません』

『よろしいですか。わたし、ほかになにも知りません。戰爭も、憎惡も知りません。わたし、たゞ神樣に仕へてゐるだけです』